

このプリントは、全国や大阪府の学力・学習状況調査などで、みなさんが苦手としていた問題を集めたものです。挑戦して、あなたのこれからの学習に役立ててください。

中学生の中西さんは、国語の授業で、「気になる日本語」をテーマに、身近な言葉の中から疑問に感じたことや興味を持ったことについて調べる学習に取り組みました。次は、中西さんが作成したレポートの一部です。これを読んであとの問いに答えなさい。

No. 1

「全然」について  
氏名 中西 健一

1 「全然」を取り上げた理由  
先日、テレビ番組で若いレポーターが「こちらはまだ全然明るいですよ。」と話していた。それを聞いていた祖母が、「この人の『全然』の使い方は気になるわねえ。」と言っていた。確かに授業では、「全然」は、「全然～ない」のように、後ろに特別な言い方を伴う副詞として、「もし～なら」、「まるで～ようだ」と一緒に学習した。しかし、私自身も「全然明るい」という使い方をすることがあるので、この言葉を取り上げて、調べてみようと思った。

2 調査方法  
①「全然」の意味を、学校図書館にある国語辞典で調べた。  
②「全然」の使い方に関する情報を、インターネットや市の図書館の資料で調べた。

3 調査結果と考察  
(1) 国語辞典  
学校図書館にあった2冊の国語辞典で「全然」を引いた。どのように説明されているか整理してみると、次の2種類の使い方に分けることができた。  
一つめは、打ち消しや否定的な意味の語を伴う使い方であり、二つめは、くだけた言い方で、肯定的な意味で強調する使い方である。  
先日のテレビの若いレポーターは、二つめの意味の使い方をしていくことになる。

国語辞典A  
ぜんぜん「全然」  
〔副〕全面的に否定する意味を表す。全く。少しも。あつち消しや否定的表現を伴って用いる。俗に、否定表現を伴わず「非常に」「とても」の意で用いられることがある。「全然平気。」

国語辞典B  
ぜんぜん「全然」  
〔副〕あつち消し言葉がくる。まったく。まるで。意味が全然わからない。方々で「全然おもしろい。」などと強調の意味で使われることもある。

No. 2

(2) 国語に関する世論調査  
インターネットで検索した結果、文化庁の「平成15年度 国語に関する世論調査」に「全然」の使い方に関するアンケートがあることが分かった。そこで、市の図書館へ行き、「国語に関する世論調査」についての報告書を探した。「全然」に関する調査結果は、日常会話の中でそのような言い方をすることがあるかどうかを尋ねた項目の中にあった。次のグラフは、「全然」の使い方に関するアンケートの結果である。

「とても明るい」を「全然明るい」と言うことがあるか

年齢	ある (%)	ない (%)	分からない (%)
総数	20.7	78.6	0.6
16～19歳	53.8	45.3	0.9
20～29歳	54.3	44.3	1.4
30～39歳	35.7	64.0	0.3
40～49歳	20.3	78.9	0.8
50～59歳	8.2	91.4	0.5
60歳以上	6.5	93.0	0.5

(文化庁「平成15年度 国語に関する世論調査」による。)

<このグラフからわかること>  
16歳以上29歳以下の人の半数以上が「全然明るい」と言うことがあるのに対して、50歳以上の人では1割未満にとどまっている。このことから、「全然明るい」と言うかどうかは、世代によって大きな違いがあることがわかる。

4 まとめ

- あなたは、南さん、原さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を書き出し、文の□に書きなさい。その上で、あなたがそのように考える理由を次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
- 条件1 レポートにある国語辞典の記述やグラフの内容を根拠にして書くこと。
- 条件2 根拠とした国語辞典の記述やグラフの内容を具体的に挙げて書くこと。
- 条件3 「なぜなら」に続けて、七十字以上、百字以内で書くこと。(解答らんに書かれている書き出しの文の字数を含みます。)

(問)

中西さんのレポートを読みながら、南さんと原さんは、「全然」の使い方について、次のように話しています。

南 私は、「全然明るい」という言い方をしてもいいと思う。

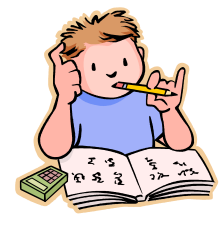
原 私は、「全然明るい」という言い方はしない方がいいと思う。

す	私
な	は
ぜ	、
な	ら
ら	さ
、	ん
	の
	考
	え
	に
	賛
	成
	し
	ま

(例1) 私は、南さんの考えに賛成します。なぜなら、どちらの国語辞典にも「全然」のあとに否定的表現を伴う場合と伴わない場合の二種類の使い方が載っているのです。どちらの使い方をしても良いと思うからです。

(例2) 私は、原さんの考えに賛成します。なぜなら、グラフの総数を見ると、「全然明るい」と言うことがない人が七十八、六%もいて、「全然明るい」は、だれもが使う一般的な言い方とは言えないからです。

自分の考えを書くときには、その理由や根拠をはっきりと書くことが大切です。資料の中のどの記述から、どう考えたのかを簡潔に書きましょう。  
また、書き終わったら必ず読み返して、読み手に伝わるかを考えて直しましょう。



二文目

全国大会出場は、三年生にとって最大の目標です。

一文目

今、私たちは全国大会出場に向けて練習しています。

今、夢中になっていること、それは部活動です。

初めて  
中学校に入学して、初めて吹奏楽部の生の演奏を聴いたとき、体中に響いてくる音の  
迫力に圧倒されました。そして、迷わず吹奏楽部に入部しました。その後、私の担当は、  
フルートに決まりました。それからは、自分でも驚くほどフルートに夢中になっていま  
います  
先日、そばで聞いていた友達から「うまくなったね。」と書きました。そのとき、  
音が出るまで苦労したけれど、あきらめずに続けていてよかったですと思いました。

今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。

皆さんも中学校生活の中で、自分が全力で打ち込めることを探してみてください。  
きっと毎日が楽しく充実したものになるはずです。

【松本さんが書いた下書き】

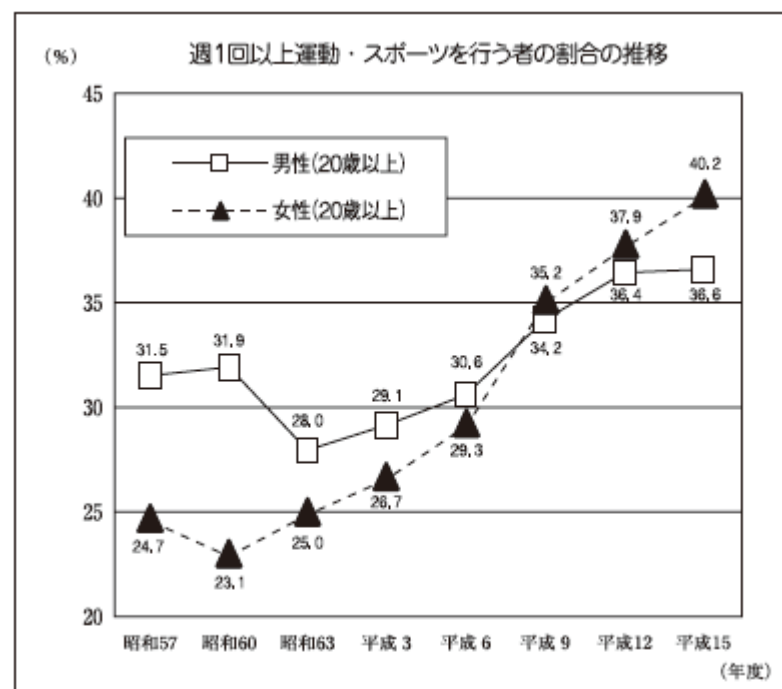
松本さんの学級では、新入生に向けて、これからの学校生活の参考となるように、「今、夢中になっていること」という題で文章を書くことになりました。次は「松本さんが書いた下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

（例）男女とも割合が増えているが、男性の増え方は小さいが、女性の増え方は大きい。

（問い）【B】の

に当てはまる文章を、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

- 条件1 グラフ【A】の平成九年度以降の内容に触れること。  
条件2 あとの文に続くように書くこと。



(文部科学省「21世紀のウェーブ 生涯スポーツ2006」による。)

【A】

次は、「週一回以上運動・スポーツを行う者の割合の推移」を表したグラフ【A】と、それをもとに中学生の内田さんが書いた文章【B】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

昭和六十三年以降、「週一回以上運動・スポーツを行う者の割合」は、年々増えている。また、男女別に見ると、昭和六十年には、男性の割合が女性の割合を大きく上回っているが、だんだんとその差は縮まり、平成六年度には、ほとんどその差がなくなった。そして、平成九年度には、女性の割合が男性の割合を上回っている。

平成九年度以降は、

このことから、男女とも健康に対する意識が高まってきているが、特に女性は、その傾向がはっきりしていると言えるのではないか。

【B】

グラフから分かることを書くときは、いつ、何が、どのように変化したかを明確にしましょう。

この問題のように、文章の中に当てはめて書く場合には、前後の文章をよく読んで、続き具合も考えましょう。

（問い一）下書きを読み直した松本さんは、くくく線部の部分の「友達から」と「言いました」との言葉の関係が不適切なことに気付きました。本文中の推敲の仕方にならって、「言いました」の部分の適切に書き直しなさい。

（問い二）——線部「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。」には、二つの内容が含まれています。意味は変えずに二つの文に分けて書きなさい。なお、二文目には「目標です」に対応する主語を補いなさい。

推敲（すいこう）では、文字の誤り、文末表現の統一、主語と述語が適切かなど、自分の伝えたいことが簡潔に伝わるか見直しましょう。

